

令和4年度 東京都内湾水生生物調査 2月成魚調査速報

●実施状況

令和5年2月16日に成魚調査を実施した。調査当日は若潮で、干潮が7時33分、満潮が11時45分であった(気象庁のデータ)。調査当日の透明度は4.4~7.2mであった。また、いずれの地点においても赤潮は確認されなかった。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:08-11:00		11:08-12:00		12:10-12:42		13:05-14:23	
水深(m)	26.0		13.3		15.1		8.8	
天候	快晴		快晴		快晴		快晴	
気温(°C)	7.1		7.0		7.6		8.5	
風向/ 風速(m/sec)	NW/2.9		W/5.4		NW/3.2		W/2.1	
波浪(m)	0.4		0.4		0.3		0.3	
透明度(m)	7.2		4.6		4.4		4.9	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	9.9	10.8	9.4	11.3	9.7	11.4	9.8	10.4
塩分(-)	31.8	32.8	30.5	33.3	31.2	32.9	30.9	32.4
DO(mg/L)	9.6	8.8	9.8	8.9	10.2	8.5	9.7	8.8
DO飽和度(%)	104.4	97.7	104.1	100.7	109.4	95.3	104.2	96.8
pH(-)	8.0	8.0	8.0	8.0	8.1	8.0	8.0	8.0
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層: 上層(0m)・下層(海底面上1m)

●主な出現種等 (速報なので、種名等は未確定です。)

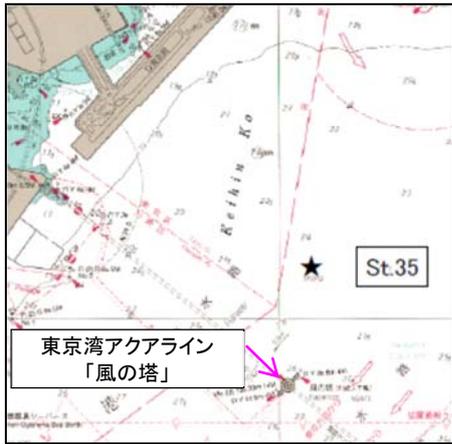
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	ハタタテヌメリ(c) テンジクダイ(c) コモチジャコ(+) マコガレイ(r) イネゴチ(r)	アカエイ(+) ハタタテヌメリ(+) マハゼ(r)	ハタタテヌメリ(+) テンジクダイ(r) マゴチ(r)	ハタタテヌメリ(+) マゴチ(r)
魚類以外 (目立った種)	ケブカエンコウガニ(m) シャコ(c) フタホシシガニ(c)	オウギゴカイ(m) チロリ属(c) クシノハクモヒトデ(c)	クシノハクモヒトデ(c) エビジャコ属(c) ケブカエンコウガニ(+)	ホンビノスガイ(c) エビジャコ属(r) サルボウ(+)
備考	上記の他、トラフカラ ツバ、スナヒトデ、テナ ガコブシ、ジュウイチ トゲコブシ、ハナギン チャク科、タイラギ、モ ミジボラ等が確認され た。	上記の他、エビジャコ 属、トリガイ、ダンゴイ カ科、マンハッタンボ ヤ、ヒラテコブシガニ 等が確認された。	上記の他、ホンビノス ガイ、ダンゴイカ科、サ ルエビ、サメハダヘイ ケガニ等が確認され た。	上記の他、アカガイ、ト リガイ、ホトギスガ イ、マンハッタンボヤ 等が確認された。

注)表中の()内の記号はだまかな個体数を表す。

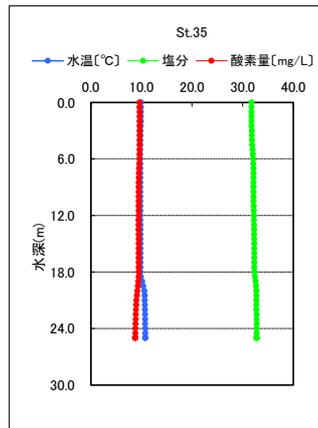
G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況



南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料



トラフカラッパ



幅広の大きなはさみ脚で口元を覆う姿が特徴的なカニ。砂底に生息する。今回採集された個体は若く、成熟個体にある甲やはさみ脚の虎斑(トラフ)がない。巻貝やヤドカリを好み、右のはさみ脚にある突起を缶切りのように動かして貝の殻を割り、身を食べる。

はさみ脚突起



主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



全長 30 cm 程になる。マゴチ同様に沿岸部の砂底に生息するが、マゴチよりも頭部が尖り、下顎が上顎より突出している。似た魚にワニゴチがいるが、本種の虹彩被膜は単純な半円形なのに対して、ワニゴチは虹彩被膜が複雑に枝分かれした形状となっている。



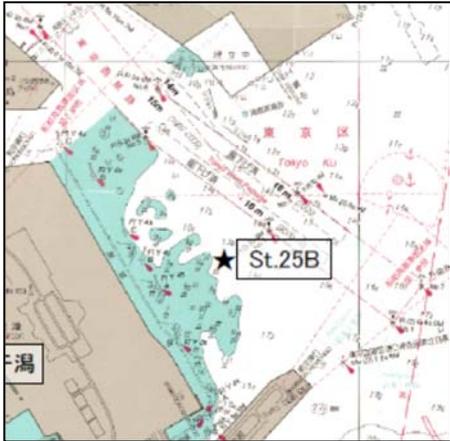
比較的深所の泥底から砂泥底に生息するハゼの仲間。東京湾全域から出現記録があるが、現在は主に湾奥部に分布する。産卵期は春。



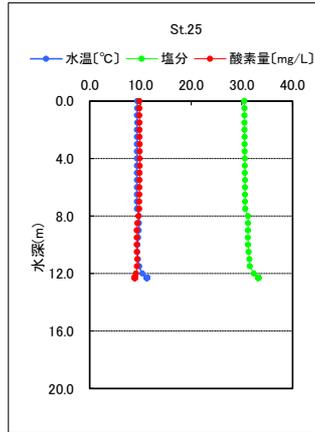
浅い砂泥底に生息し、全長 45cm 程に成長する。成魚は夏には湾中央部のやや深場の砂泥域に分布するが、秋から春にかけては湾奥部にも出現する。この分布変化は夏の貧酸素水塊の発生に関連すると考えられる。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況



西側には東京国際空港が見える。

採取試料



丸みを帯びた胴と丸い耳のようなひれを持つ小型のイカ類。活発に泳ぎ回らず、海底付近で生活する。夜行性であり、昼間は砂泥中に潜っている。

※11月調査時に同地点で採集したダンゴイカ目の卵



主な出現種 ※写真のスケール 1目盛:1mm



東京湾で最も普通にみられるエイの仲間。胸びれで海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類等を食べる。尾部にノコギリ状の棘(毒針)を持ち、刺されると危険。今回、本地点で 8 個体が確認された。



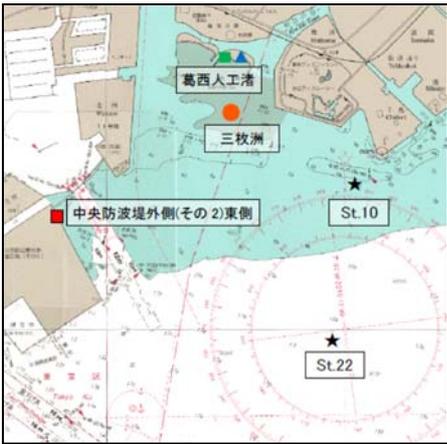
東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。



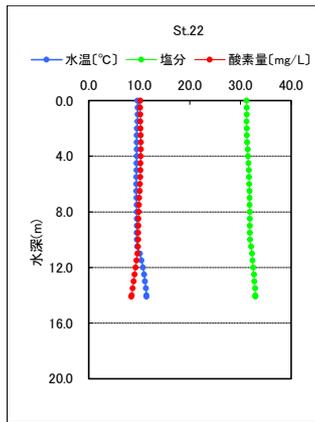
体長 20 cm 以上になる大型のゴカイ類。東京湾の泥底～砂泥底では、貧酸素状態の期間を除き、普通にみられる。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況

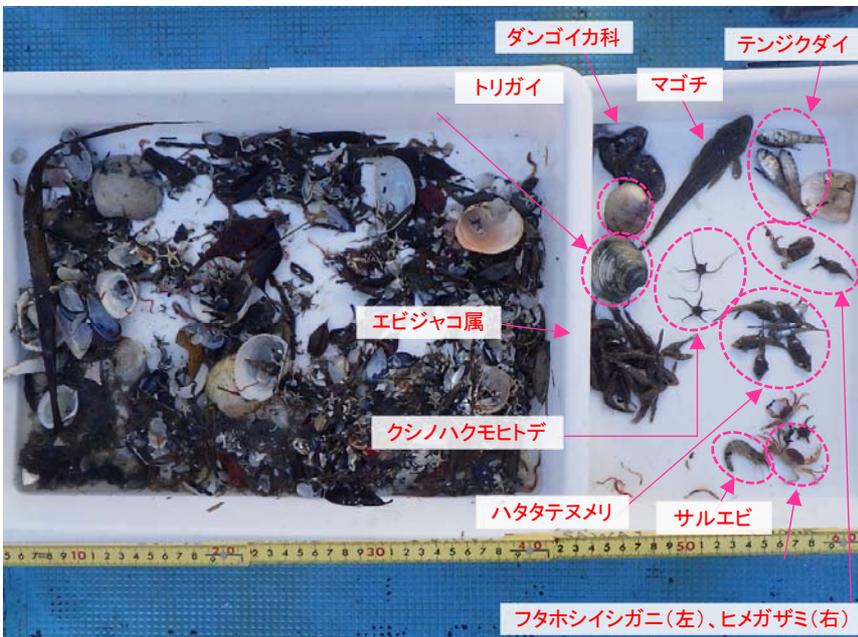


地点状況



北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獐猛で、稚魚等を捕食する。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



東京湾全域に出現し、特に湾奥部に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は7~10月で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。



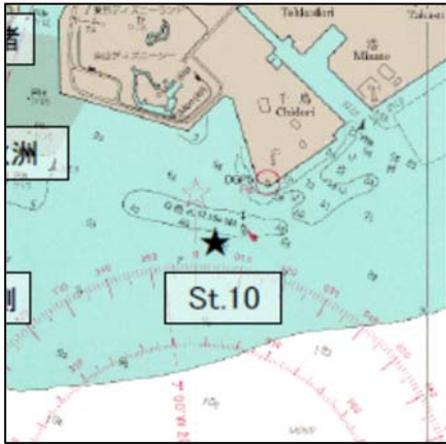
甲幅 3cm 程になる。水深 10~100m の砂泥底に生息する。東京湾では 2003 年頃から増加。マアナゴ等の胃内容物として見つかり、これら魚類の重要な餌となっている。



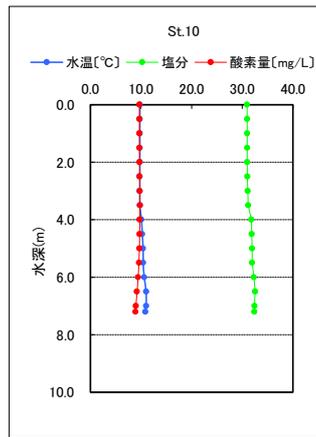
東京湾で最も普通にみられる小型のクルマエビの仲間。内湾の砂底~砂泥底に生息する。日中は砂に潜っており、夜間に活動する。7~8月が産卵盛期。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況

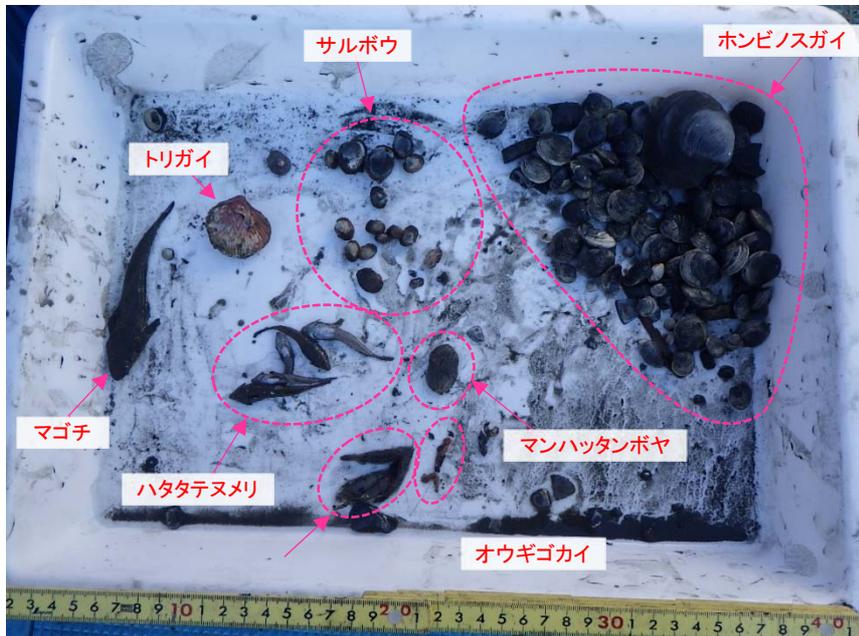


地点状況



北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料



内湾の水深約 20m までの砂泥底に生息する。稚貝の時期は足糸で海藻等に付着して過ごす。成長するに従い砂泥地に潜り込む。アカガイによく似ているが、殻表面のスジの数で区別できる(サルボウ 32 本、アカガイ 42 本)。

主な出現種 ※写真のスケール 1 目盛: 1mm



褐色の帯が入る平べったい体の特徴。内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息し、底生物や小型の魚類を食べる。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深所へと移動する。



北米原産の外来種で、殻長 10cm を超える大型種。殻は本来白色だが、貧酸素環境で生育したものは硫化物の影響で黒ずむ。東京湾では湾奥部の泥底やカキ礁周辺で多くみられる。



北米東海岸原産の外来種。最大直径 4cm 程になる単体性のホヤ。透明～黄褐色の被囊を持つ体は球形に近い。潮下帯の人工構造物に付着し生息している。水質汚濁や低塩分に耐性がある。